

【日本】JPO、GXTI を用いたマクロ調査結果を公表

2022 年 6 月 23 日、日本国特許庁（JPO）は、グリーン・トランスフォーメーション（GX）に関する特許技術を俯瞰する新たな技術区分表を作成し、それに紐付けられた特許検索式を合わせた「GXTI (Green Transformation Technologies Inventory)」を公表しました。

詳細につきましては弊所知財トピックス 2022 年 10 月掲載分及び 2023 年 9 月掲載分をご参照ください。

<https://www.saegusa-pat.co.jp/topics/12002/>

<https://www.saegusa-pat.co.jp/topics/13786/>

今般、JPO は「令和 6 年度特許出願動向調査-マクロ調査- GXTI 編」を公表しました。主な内容は以下の通りです。

1. 調査方法等

- ・ 調査期間：2014～2022 年（優先権主張年ベース）

- ・ 調査対象国

【GX 技術全体、GXTI 上の大区分、GXTI 上の中区分】

日本、米国、欧州、ドイツ、フランス、英国、中国、台湾、韓国、カナダ、インド、ASEAN、オーストラリア及び PCT 出願

【横断的な視点（gxY01～gxY04）】

日本、米国、欧州、中国、韓国及び PCT 出願

- ・ 調査実施日：2024 年 11 月 1 日～2024 年 12 月 9 日

2. 調査結果

1) 出願人国籍・地域別のパテントファミリー件数年次推移

2014～2022 年の調査対象国・地域への特許出願について、ファミリー件数は約 100 万件で増加傾向にあり、中国籍が約 53 万件と最も多く、次いで、日本国籍、韓国籍、欧州籍、米国籍の順に多い。

中国籍は顕著に増加、韓国籍、インド籍も増加傾向で、欧州もやや増加傾向にある。

日本国籍は、2018 年以降大きく減少にあり、米国籍も 2016 年以降やや減少傾向である。

2) 出願人国籍・地域別の IPF 件数年次推移

2014～2022 年の調査対象国・地域への IPFF（International Patent Family）件数は約 27 万件で増加傾向にある。

その中で、日本国籍が約 7 万件と最も多く、次いで、欧州籍、米国籍、中国籍、韓国籍の順に多い。

日本国籍は 2018 年まで増加したが、その後、減少傾向であり、米国籍はほぼ横ばい傾向、中国籍及び韓国籍は増加傾向にある。

3) 大区分別ファミリー件数推移と出願人国籍・地域別ファミリー件数

大区分別ファミリー件数合計では、「gxB：省エネ・電化・需給調整」が約 39 万件で最も多く、次いで、「gxA：エネルギー供給」「gxC：電池・蓄エネ」の順となっている。

中国籍が全ての大区分のファミリー件数で最も多く、日本国籍は、「gxA：エネルギー供給」「gxB：省エネ・電化・需給調整」「gxC：電池・蓄エネ」で2番目に多い。

4) GXTI 上の gxY（横断軸）区分別の動向調査

GXTI 上の gxY（横断軸）区分別ファミリー件数合計では、「gxY04：ICT 関連技術（ビジネス関連技術を除く）」が約 11 万件で最も多く、IPF 件数も同様である。

中国籍が全ての区分のファミリー件数で最も多く、日本国籍は、「gxY04：ICT 関連技術（ビジネス関連技術を除く）」「gxY02：計測・測定関連技術」で2番目に多い。

調査結果の詳細につきましては、JPO の以下 URL をご参照ください。

<https://www.jpo.go.jp/resources/statistics/document/gxti/r6fy-gxti.pdf>